

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770400428		
法人名	三協グループ株式会社 介護事業部		
事業所名	グループホーム「やすらぎ」		
所在地	大阪市港区弁天5-14-3 シーサイドヴィラ 2F		
自己評価作成日	令和2年11月30日	評価結果市町村受理日	令和3年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	w.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2770400428-0
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和3年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>6名定員1ユニットの小規模でアットホームなグループホームです。 マンション2階部分を改装しており、他にない独特なワンフロアです。 運営理念「職員、利用者様、ご家族様が心からの笑顔で結ばれる介護を実施します」を念頭に、入居者様の「自己決定」を尊重したケアを行っております。入居者様の身体状況は様々ですが、入居者様の思い・願い・楽しみ等を大切に、フロア全体が家族と思えるような環境作りに取り組んでおります。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所母体の三協グループ(株)は港区弁天町に本社を置き物流事業からリノベーション事業・人材派遣業など幅広い事業を展開し地元貢献の志から高齢者福祉分野に参入してきた。第1やすらぎは10階建てのビルの2階にあり1階はデイサービスが併設されている。至近距離に第2第3のグループホームがあり、3事業所は協力しながら緊密に連携している。合同開催の運営推進会議は地域住民の代表が多く参加し、地域との交流は双方向で盛んである。コロナ禍で不安を募らせる家族の為にテレビ電話を活用したり、主治医のコメントが添えられた月1の近況報告を郵送している。管理者は電話やメールを通じてこまめに連絡や相談にのっており家族との信頼関係も良好である。利用者が6名と小規模なため本当の家庭のような暖かな雰囲気の中で本人本位の支援を実践している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設に経営理念・社訓・事業部運営理念・を事務所に掲示。 朝礼時に、唱和を実施し周知 新入職者にはオリエンテーションにて説明している	理念を「職員、利用者様、ご家族様が心からの笑顔で結ばれる介護を実施します」としホームページに記載し事業所に掲示している。毎朝の朝礼では全職員が唱和している。「笑顔の連鎖」を意識付けし共有し、日々の実践に生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣公園の散歩やコンビニへ買い物等積極的に外出、また他事業所の利用者様との交流などを行う コロナウィルス感染症対策により外出機会が減り交流機会が減少	現在地域交流は途絶えているがそれ以前の活動は非常に活発といえる。町内会に加入し行事(祭り・防災訓練など)にも積極的に参加している。町会の会合は職員が交代で出席する。演奏ボランティアの訪問、中学生の体験学習も4事業所合同で受け入れている。運営推進会議には町会長はじめ町内で顔なじみの数名の役員の参加がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月の町内会議への参加・町内会イベントの参加を通じてグループホーム・認知症に対する理解を深めていただく	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月1回の会議実施。町内会長や地域の各役員・地域包括担当者らが出席。近況報告や意見交換を通じサービス改善に向けている。また認知症に対する研修などを行う。コロナウィルスの感染症対策により5月以降は各会員への書面による開催で対応している	3事業所合同での会議で地域の参加メンバーも多く報告や意見交換に加え認知症関連や口腔ケアの研修会(協力医らや薬剤師が講師)も企画している。参加者にも喜ばれ町内会の学習会開催に広がった例がある。昨年よりコロナ禍により書面開催に替えているが収束後に向けて、家族への参加要請や事後報告の徹底に取り組もうとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括などへ出向き、空き情報を含め、施設の状況を案内。 生活保護受給者対応施設でもあり生活支援課担当者とも密に連絡を取り近況を報告している	コロナ禍であり現在はメールや電話での連絡が主であるが市や区の担当部署とは緊密な連携体制がとれている。地域包括支援センターとは社協の会長や職員が運営推進会議のメンバーでもあり日常的な協同関係が築けている。区内のグループホーム連絡会が活動休止のため、他区のグループホーム会に積極的に参加し情報交換を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わず、状況に応じたケアに取り込んでいる。年2回の社内研修を実施し身体拘束適正化の為に指針の周知を行う	近年身体拘束の該当者はいない。3ヶ月ごとの身体拘束適正化委員会は直近は3事業所合同でZoom会議を行っている。新人研修や年2回の社内研修では指針をもとに学習し身体拘束をしないケアを実践している。2階にある玄関は以前は施錠していたが、コロナ禍での閉塞感を緩和するためロックを外し見守り重視で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する年2回の社内研修の実施。また地域のアンガーマネジメントに関する研修に毎年参加している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者/計画作成担当者が中心となり勉強会・研修機会を設けて職員への伝達・理解を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様・家族様に納得・理解いただけるように十分に時間をとって説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お気軽に意見や要望を頂ける様、ご意見箱/面会簿に要望欄を設けている。また日常的に家族様とのコミュニケーションがとれる関係性の構築。気軽に意見・要望を伝えやすい環境づくりをこころがけている	毎月「やすらぎ通信」と「利用者近況報告・メッセージ」を家族に送っている。近況報告には職員・主治医からのコメント欄があり、体調や認知症状の変化を伝えるなど充実した紙面である。希望する家族には一日の経過を克明に記録した日誌を追加するなど個別に対応し、管理者はこまめな連絡・相談をメールや電話で家族の心配や不安解消に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、顧客サービスの向上と従業員満足度の向上をテーマとしたES・CS向上会議を実施。 スタッフの意見を運営会議の場に持ち込んでいる	管理者と職員のコミュニケーションは良好で、会議以外でも気軽に意見を出せる環境である。社長出席の本部での会議では職員の提案を取り上げる場があり「コロナ禍での閉塞感を緩和し気分転換を」との提案を管理者がまとめた企画が通り、新しいレクリエーション用具の購入、日曜の食イベントを通常より豪華(カニ鍋・寿司)にと実現できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上記のCS・ES向上会議により職員からの意見・提案をもとに改善等をおこなっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画をもとにスタッフ全員に対しての技術とスキルの習得機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との勉強会を兼ねてのスタッフ交流・研修を行う。 また他の地域の高齢者施設連絡会にも参加し情報等の収集・共有を行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の訴え・要望に傾聴と的確なアセスメントを行いご本人様にとって必要なサービスを提供し安心・安全な場を確保している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	「グループホーム」を理解いただいたうえで 家族様の現状と今後の要望を確認し、反映していきながら信頼関係を構築していく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様のニーズを把握し、必要な支援に心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の生活歴・趣味等を把握し、出来る事や共同作業を通して、入居者様と職員の良好な関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様ご本人を中心にご家族様の要望・希望もふまえて協力してケアをおこなえるよう信頼関係を構築している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会/外出/外泊はご本人の体調に問題なければ、自由にしてもらっているが、今年はコロナウィルス感染対策で不要不急の面会・外出は控えている	コロナ禍の中、家族との面会はラインのテレビ電話を活用したり、電話や手紙を取り次いだりして馴染みの関係が途切れないよう努めている。以前は家族と協力しながら墓参り・馴染み理髪店・実家の付近の散歩に同行したりと一人ひとりの生活習慣や希望を尊重する支援を行っていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにおいて、食事/お茶会で全員が顔を揃えていただくようにしている。気軽に会話やテレビを観たり、音楽を聴いたり歌ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了されても、ご相談に応じたり、入院されての退所後のお見舞い等実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者様個々の希望や意向の把握に努め、出来る限りの入居者様本位の生活が出来よう、常に情報を共有して対処している。	ほぼ全員と会話が成り立ち意向や思いを把握しやすい。得た情報は生活記録テーブルなどに記録した上で共有し介護計画作成に反映している。日曜日の食イベントについては一番の楽しみ事であり、数日前に希望を聞き「中華まん」の人気の高いなど、利用者が食べたい物を選んで特に喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 、	職員全員が、生活歴・人生観・思い等を把握した上で対応している。問題点があれば対応策を即検討実施し、検証している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身状態の把握は、食事量・バイタル・水分摂取量・排泄回数を記録。体重測定は毎月実施し、かかり付け医師への報告し指示を仰いでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、ご本人の意見・要望等を聞き、全職員の意見を聴取した上でご家族の意見や要望も把握したものをケアプランにしている。	介護記録・申し送りノート・毎月のモニタリング結果や医師の所見等を基に、計画作成担当者が資料を作成しアセスメント会議(サービス担当者会議)を開き、介護計画を作成している。急変時には全員で話し合い即見直しを行う。必要があれば家族の出席もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや体調変化にはすぐに対処できるよう、情報共有しケアプランの見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様ご本人・ご家族様の要望に対して施設としてできることに関して柔軟に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議開催による情報の共有。地域の敬老会などイベントの参加。 コロナウィルス対策により活動は自粛		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	新入居者様へは内科往診医のご理解/承諾をいただき、個別の医療に関してはご家族の協力と理解をいただいて対応している。	入居時に事業所の医療体制を十分説明して納得の上、ほとんどの利用者は協力医に変更して月2回の訪問診療を受けている。一名は従来からのかかりつけ医の継続を希望しその医師(精神科)が訪問してくれている。他科の通院は家族送迎を基本にしているが、家族の都合がつかないときなど、事業所でも対応することも多くある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	内科往診医/協力医療機関有り。個別に訪問看護依頼し実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報/サマリーを円滑に行っている。退院時も同様に行っている。連携室と密に連絡をとっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時において、終末期(重度化)における際の対処を説明し承諾を得ている。緊急時の対応についても(延命処置)等の希望を確認し主治医と共有している	看取りをしないという事業所の方針を承諾したうえで入所している。重度化した場合は家族、医師、事業所と話し合い、訪問看護を入れるなどして、できるところまでは看るが、継続的な医療が必要になった時点で、主治医が連携している病院に入院するが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や急変時はすぐに主治医に連絡し、指示を受け対応している。夜間時も主治医指示のもと夜勤者が初期対応を行い、緊急搬送は手順通りに対応できるよう掲示。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施。消防署立ち合いの際には現状のハード面を考慮した避難経路と避難場所の確認し他部署との連携体制を含めて訓練を行う	事業所は大阪湾のすぐ際にある、高層マンションの2階にあり、火災の場合、高浪の場合などを想定して訓練を行っているが、車いす利用者もあり、実際の避難には困難が予想される。徒歩圏内に系列のグループホーム2か所と本社があり、災害時の協力体制には安心点である。一昨年までは地域防災訓練に利用者と一緒に参加していた。	防災対策は真剣に考えて、取り組み中であるが、エレベーターの動かない中の避難、備蓄のこと、その他、課題は多くある。より一層の取り組み強化を願う。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の理解を職員一人一人がプロとして、言葉使いや対応法に十分配慮。年間の社内研修計画の中で教育を行っている	接遇や、プライバシー保護、認知症の研修は本社が企画して適切に行われている。もし、現場で不適切な行為が見られた場合は介護主任が注意、指導する体制もできている。記録にタブレット、パソコンが使われている現在は個人情報保護には特に注意して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者様目線で対応し、ご本人様の要望・思いを汲み取れるよう日々コミュニケーションの中で信頼関係を構築しご本人様が思いや希望を表したりしやすい環境づくりを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思を尊重し、リスクを伴わないように配慮しながら、自らの意思で自由に過ごして頂くようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝夕の整容を出来る方にはご自分でして頂いている。服も利用者様ご本人に選んでいただいている。また、基本2か月毎に訪問理美容でカットに限らず、ご要望でパーマ等にも対応してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日を食事イベントの日とし、盛り付け等手伝って頂いたり、好みのメニューにしている。	食事は徒歩圏内の系列グループホームの厨房でプロが作って届けられる料理を昼、夕提供している。日曜日は厨房が休みなので、みんなで考えて、調理したり、買い物に行ったりして、好きなものを食べる日としている。カニ鍋をしたり、バレンタインのおやつを作ったり、楽しみなものになるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様個々での対応。食事量や水分量の調整。また食事形態も嚥下状態に合わせて、キザミ食やとろみ食にて対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週火曜日の訪問歯科往診により口腔内のチェック。 月一回スタッフへの口腔関連の指導		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様個々の排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行い排泄を支援している	トイレでの排泄を基本にし、要介護5の人も夜間はオムツ交換しているが、日中はリハパンにしてトイレ誘導している。現在、認知症の進行により、排泄行動が困難になっているケースがあり、職員全員で検討し、試行錯誤しながら、自立支援目指して努力している例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取促しや運動などにより腸の活発化を促し、自立排便の支援。 排便状況・排便回数確認を行い主治医指示のもと緩下剤服用実施。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回実施。体調/汚染等で臨機応変に対応。楽しんでいただくよう入浴剤を使用。	浴槽はマンション仕様の変形で介助しやすくはないが、様々な補助機器を使って安全な入浴を支援している。現在は全員がこの風呂を使っているが、もし無理になった場合は下のデイサービスを含めて近隣の系列施設も使うことができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状況を把握し、生活のリズムが崩れぬよう努めている。夜間1時間毎の巡回実施。室温・湿度の管理を行う		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れ/服薬ミスのないよう職員2人で確認して管理実施。状態変化等は主治医に報告して主治医の指示のもと対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯ものを畳んでいただいたり、配膳や下膳/盛り付けを手伝っていただいたりしている。出来る事を楽しくしてもらえるよう配慮。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候/体調考慮の上、近隣の散歩や買い物等の外出の機会を設けている。ご家族と外出・外食も気軽に行けるよう配慮している。コロナウィルスの感染対策により、玄関先でのお茶会など気分転換できるよう工夫している	外に出れば、目の前は海で、すぐ近くに小さい公園やコンビニエンスストアがあり、散歩や買い物には恵まれた環境である。今は外出はできないので建物の周りを少し歩いたり、玄関先でベンチに座って気分転換したり、ベランダに出て洗濯物干しを手伝ってもらったりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了解のもと、当グループホームでは全員金銭管理は行わず、外出時の買い物があれば立替を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話を取り次いだりして、要望に極力応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に表札を付け、外出時や家族様との写真等を居室ドアに飾ったりしている。入居者様の絵画や作品も展示したり、季節の花を飾ったりしている。	南向きのリビングキッチンは大きなテーブルと、テレビやソファがあり、みんなで作った季節感ある作品などが飾られて、「狭いながらも楽しい我が家」という感じがする。次亜塩素酸水での消毒や空気清浄機なども使って感染に気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設置。また玄関先にベンチを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室により広さがまちまちであるが、使い慣れた家具や調度品等を置き、くつろげる環境にしている。	大きさ、向き、形などまちまちな個室で、カーテン、空調、照明以外は持ち込み自由なので自分の好みにあったものが持ち込まれてその人らしい個人の空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・風呂場・洗面・居室等分かり易いように配慮している		